

使われ方の経年変化および教師の評価からみたオーブンプラン型学習環境の意義

日本建築学会計画系論文集 第76巻 第664号/pp.1073-1081/2011年6月

正会員 倉斗 綾子 君

時代を代表するオープンスクールの事例を、10年以上にわたって追跡調査し検討した著者の長年の研究成果であることが評価される。現在、どのような形や状況の下でオーブンプラン型の教室周りが使われているのか、といった実態の提示そのものも、非常に貴重なものだが、何より、こうした経年的研究は、地味ではあるが、一過性の評価に留まらず、オーブンプラン型学習環境が学校の運営方式や教師意識の変化と関係し合って変化する様子を明らかにしたことは特筆すべきである。また一方で、当初の意図通りではない使われ方が教師の側から発見的に行われていること、更に試論としてではあるがそれらの相互関係を、学校を取り巻く社会状況の変化の中において考察することで、多くの知見を明らかにした貢献は大きいと言える。このように対象を継続して見つめ続けることは、研究者としての使命でもあり、とりわけ建築計画研究に於いて望まれる姿勢である。